

平成 30 年第 1 回定例会総体質問通告事項

<p>3 月 9 日 午 前</p>	<p>杉原孝一郎議員（尾道未来クラブ） 質問方式：一問一答方式</p> <p>1 平成 30 年度予算編成方針について          (1)「歳出改革の徹底」と「各事業の新陳代謝の推進」の具体事例はなにか          (2)市債の増加が一時的というが、老朽化した市民病院の建替えや平谷市長が取壊した千人規模の公会堂の再建設計画、南海トラフ大地震を想定するなら庁舎よりはるかに危険度が高い木造住宅密集地の安全対策事業計画がない。すべて次期市長の宿題となる。そのほか久保小、長江小などの建替えも目前であり、借金の増加が一時的でないのは明らかです。財政計画を練り直す気はないか</p> <p>2 5 項目に分けて述べている予算編成の基本方針について          (1)財政の健全化に向け、すべての事業について徹底した見直しを行うとありますが、庁舎関係の事業以外は、徹底的に絞り込むとも読めますが、この真意は何か          (2)新規事業は、事前評価で優先順位付けをするとあるが、明確な基準があるのか          (3)新規事業を要求する場合、既存の事業の整理と費用対効果の検証を行うこととあるが、実現できた事業名の数と、整理した事業は何か          (4)事務事業の見直しの責任者が部長から係長まで格下げされているが、その理由は          (5)事務事業の何が抜本的に改善されたのか、具体的にお示しを</p> <p>3 財政改革と活力ある事業を両立させたというが、その内容の真偽について          (1)財政改革と活力ある予算編成を両立させるのは、市の財政指数を分析しても、非常に困難であるが、メリハリのない箱物中心の予算編成になっている。両者をどう調整したと自画自賛するのか、その根拠と具体的な説明を</p> <p>4 職員の意識改革・未来志向は、今日的行政環境では喫緊の課題それがどこまで浸透し実現しているのか、その実情について          (1)市長自身、意識改革や未来志向が職員に十分浸透しているとお考えか、そう思うなら、どんな成果が得られているのか、具体例を示してお答えください。</p>
--	--

5 再生エネルギー事業に行政財産・普通財産の未利用地を活用する政策について

(1)原発に変わる再生エネルギー源として太陽光発電にも光が当たっているが、尾道市も市有地の有効活用で協力しないか

6 舟券売り場の建設反対・賛成グループの対立で新高山町内会が紛糾中。本件について市長の考えを明らかにすべきではないか

(1)住宅地域の近隣に舟券売り場の施設が来ると、住居地域や工業地域では公示価格が下落し、商業地域や準工業地域では逆に上昇。売り場から600m以上700m未満の住居地域で53.9%の下落が見られるという調査論文があるが、現状を市長としてどう考えるか